

# わがまちの防災

## ”もしも”に備えた防災対策を！



近年、全国各地で大規模な地震や水害・土砂災害が発生し、尊い生命や財産が失われる被害もたらされています。

幸い本市では、人命にかかわる大きな災害は、ここ数年発生していませんが、日本海における地震の空白域と北由利断層の存在、すぐに噴火が起こるような兆候はないものの、活火山の烏海山を抱え、いつ大きな災害に見舞われるか分かりません。

大規模地震が発生すると、人、建物およびライフライン等に甚大な被害が予想され、地震の規模にもよりますが、低地に密集している住宅地区や工場地区の広がり、地下水の高い粘性土形成の土質等でも被害の広がると予測があり、地震災害とともに津波災害にも、海岸部を広く有する本市は警戒しなければなりません。

市では、現在「地域防災計画」と「国民保護計画」の策定に取り組んでいます。まず市民の一人ひとりが震災に対する危機意識を持ち、十分な災害対応力を備えること、および地震発生後、即時に災害対策活動を開始できる体制を整備することが必要であると思われまふ。この機会にいま一度防災について考えてみませんか。

**■風水害や土砂災害に備えて**  
これから日本は台風シーズンを迎え、長雨や集中豪雨による浸水やけが崩れが起こりやすい季節になります。これらの災害から身を守るためには、さまざまな防災情報を正しく理解し、避難路・避難場所を確認しておくなどの「日ごろの備え」と、異変を感じたときの「早めの避難」が大切です。

**◇土石流とは**  
谷や山の斜面から崩れた土や石などが、梅雨の長雨や台風の大雨などによる水と一緒に流れて、一気に流れ出る現象です。

**○発生の前兆現象**  
・近くで山崩れ、土石流が発生している  
・立木の裂ける音や大きな岩の流れる音が聞こえる  
・降雨が続いているにもかかわらず、溪流の水位が急激に減少し始める

・異様な臭い（土臭い、ものの焼けるにおい、酸っぱいにおい、木のおいなど）がする  
**◇がけ崩れとは**  
地中にしみ込んだ雨水により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。

**○発生の前兆現象**  
・斜面に亀裂ができる  
・小石が斜面からバラバラと落ち出す  
・斜面から異様な音、地鳴りが聞こえる

**◇地すべりとは**  
緩やかな斜面の粘土のような滑りやすい地層に雨水などがしみ込み、その影響で地面が動き出す現象です。

**○発生の前兆現象**  
・地鳴りがする  
・地面が振動する  
・亀裂や段差の発生、拡大  
・建物等の変形（戸の締まりが悪くなる。壁にすき間ができる）

**□急な川の増水に注意□**  
河口では晴れていても、上流の山間部で激しい雨が降ったりすることがあります。澄んでいる川の水が濁ってきたら、急に川の水が増水することもあり危険です。川の堤防などへ避難してください。これから河原でのなべっこやキャンプの季節ですが、十分注意して安全に過ごしましょう。

**■突然襲う地震災害**

まず、地震がどんな現象をもたらすか知っておきましょう。地震は、①ゆれ(地盤の強震動)、②地面を盛り上げたり沈み込ませたり(地盤の変位)、③地面が水のように流れて動く(液状化)、④津波を起す、などの現象をもたらします。地震のタイプや地域の地盤によつては、こうした現象がより大きくなったり、重なって起きたりします。では、大地震による災害とは……建物や家具が落ちてガラスが割れ、看板が落ちる。家や建物

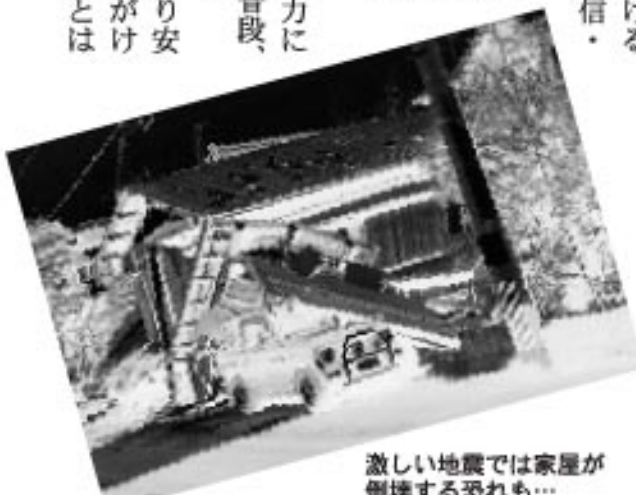
がこわれて倒れる。崖から大きな岩や土砂が落ちて道路や家や畑をうめる。電柱が倒れ、ガス管、水道管がこわれる。電車が脱線し、ガスタンクなどの施設がこわれる。地盤が水と泥のようになる液状化が起こる場所もあり、建物が大きく傾き倒れる可能性もある。さらに津波が押し寄せるかもしれない。これが「二次災害」です。

「二次災害」としては、火災があります。また、土砂により河川の流れがせき止められると、水害も起こります。電気や水道

ガスが止まれば、生活を続けることが困難になります。通信・交通も寸断されます。

このように大地震の災害は、みんなの命にかかわるだけではなく、助かっても生活に大きな支障をもたらします。

地震という大きな自然の力には太刀打ちできませんが、普段、できるだけ自分の周囲から危険な要素を取り除き、より安全な環境を整えることを心がければ、被害を少なくすることは可能です。



激しい地震では家屋が倒壊する恐れも…

**あなたを守る7つの行動**

- 1 落ち着く**
  - 揺れを感じたら、まず丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠す。
  - 座ぶとんなどが身近にあれば、頭部をほごする。
  - 玄関などの扉を開けて非常説出口を確保する。
  - 大揺れは一分程度で収まるので周囲の状況をよく確かめ、あわてて外に飛び出すことなく落ち着いて行動する。
- 2 消す**
  - 使用中のガス器具、ストーブなどは、すばやく火を消す。
  - ガス器具は元栓を締め、電気器具は電源プラグを抜く。
  - 地震後に避難する場合は、ブレーカーを切ってから避難する。
  - 万一火が出たら、まず消火器や三角バケツなどの消火用具でボヤのうちに消し止める。
- 3 逃げる**
  - 避難をするときは、必ず徒歩で避難する。
  - 服装は、活動しやすいものにする。
  - 携帯品は、必要品のみにして、背負うようにする。
  - 強い地震（震度4程度以上）を感じたとき、又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じた時は、津波に注意し、直ちに海浜から離れ、急いで高台や津波避難所などの安全な場所へ避難する。
  - ラジオなどで津波情報をよく聞く。
  - 山ざわや急傾斜地域では、山崩れ、がけ崩れが起こりやすいので、自分ですばやく決断し、直ちに避難する。
- 4 離れる**
  - 狭い路地や塀ざわは、瓦などが落ちてきたり、ブロック塀やコンクリート塀が倒れてきたりするので離れる。
  - 崖や川べりは地盤のゆるみで崩れやすくなっている場合があるので、これらの場所に近寄らない。
- 5 助け合う**
  - 軽いケガなどの処置は、みんながお互い協力し合って応急救護をする。
  - 大声で隣近所に声をかけ、みんなで協力し合って初期消火に努める。
  - 建物の倒壊や落下物などの下敷きになった人がいたら、地域みんなが協力し合って救出活動をする。
- 6 正しい情報の入手**
  - テレビ、ラジオの報道に注意して風評にまどわされないようにする。
  - 市役所、消防署、警察署などからの情報や防災行政無線の放送には、たえず注意する。
  - 不要、不急な電話は、かけないようにする。特に、消防署等に対する災害状況の問い合わせ等は消防活動に支障を来すのでやめる。
- 7 自動車の運転中**
  - 道路の左側か空き地に停車し、エンジンを止める。
  - カーラジオで災害情報を聞く。
  - 警察官が交通規制を行っているときは、その指示に従う。
  - 避難するときは、キーを付けたままにして、徒歩で避難する。